

## 野生動物による農作物被害を防ぐには

NO.3

### <アライグマ編>

アライグマはカナダから中央アメリカに生息する夜行性の動物で、ペットとして日本国内に持ち込まれています。これが、どう猛な性格等から飼い主の手に負えなくなり、山林に放たれ、野生化し始めました。関東では神奈川県での分布が目立ちます。

山梨県でも平成13年に狩猟により2頭捕獲されている他、目撃事例があります。



### 特徴

体重4～10kg 寿命 5年程度(野生) 完全な夜行性

雑食性で、水辺を好む。年1回春に3～6頭産子

タヌキによく似ているが、尾のしま模様はアライグマ特有。

手先が器用で木登りをするばかりでなく、オリの鍵をはずして脱走することもある(写真の様に檻を立てるとのぼるところもタヌキと異なる)。

生息：北海道、岐阜、神奈川、愛知、和歌山、京都など計40都道府県

### 被害の様子

雑食性のため、農作物では果樹・野菜問わず害する。

養殖場や池の魚が食害される。

屋根裏にすみつき、糞尿による被害が発生するほか、生ゴミも荒らす。

アライグマ回虫症は人畜共通の感染症で、ペットへの感染が既に認められている。

### 被害対策

繁殖力が強いいため、定着・増加前の捕獲が効果的です。捕獲の方法は、

ア 狩猟(免許が必要)。夜行性のため、銃器での捕獲は困難。ワナを利用する必要がある。

イ 有害鳥獣捕獲(免許及び市町村長許可が必要)。箱ワナ(オリ)での捕獲が有効。

また、魚への被害対策としては「池の上面を目の細かい丈夫な網で覆う」ことや、家屋での対策としては「屋根裏への侵入口を閉鎖する」ことが挙げられます。

他、[かわいいからといって決して餌を与えてはいけません](#)し、生ゴミ荒らしの被害が発生している場合には、ゴミの朝出し(夜行性のため)を徹底する必要があります。生ゴミ荒らしを許すことは、アライグマにとってみれば餌付けと同等になってしまいます。屋外に犬や猫の餌を放置することも同様です。

### 捕獲方法のポイント

ア オリに入れる餌はドッグフードや甘みの強い菓子などを用いる。

イ タヌキ等が誤ってオリに入ることがある。錯誤捕獲した際は早急に放つ。目と目の間にある黒い線が見分けのポイント(上の写真参照)。捕獲時には、尾や指を隠していることも多いため、顔で判断すると良い。

ウ 警戒心は強くないため、オリ形状などはそれほど神経質にならなくてもよい。

エ 家族など複数で行動する場合は、一部が捕獲されても警戒しないため、オリが複数あれば一度に多頭捕獲が可能。

オ 強靱な力を持ち、牙やツメなどが鋭い。捕獲後の作業には、厚手の革手袋などを必ず着用し、むやみに手や衣服を近づけない。中には捕獲ワナを信じられない力で破壊して逃げる個体もいる。